

# H ostelling Magazine

9/25  
Autumn  
2015

リアル・ワールド

10代から体感した“世界内現実”への旅。  
本質を見極め、社会にアクションを起こす上で、  
旅は僕に揺るぎない視座を与えてくれる。

俳優/映画監督/REBIRTH PROJECT代表

伊勢谷 友介氏

Hostelling Magazine × 地球の歩き方

白夜の終わりを静かに告げる

秋の夜空を彩るオーロラ

 フィンランド  スウェーデン  ノルウェー

■フィンランドをもっと楽しむための5 Topics

Youth Hostel Pick up

世界中から人々が訪れ  
“出会い”が生まれる場所

東京隅田川ユースホステル

■Tokyo Youth Hostel Information

 トリップアドバイザー®

■ユースホステル口コミ情報局

■横浜ふれあいスポットランキング

Event Information

■2015 AUTUMN

全国のイベント情報満載

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業  
として助成を受け作成されたものです。





最高の船旅と第一級のおもてなしをお手頃な価格で

# VIKING LINE

バイキングライン

web: [www.sales.vikingline.com](http://www.sales.vikingline.com)  
tel: +358 9 123 5300  
e-mail: [international.sales@vikingline.com](mailto:international.sales@vikingline.com)



バイキングラインでのクルージングの価値はいわばスカンジナビア伝統の最高の船旅と第一級のおもてなしを、極めてお手頃な価格でお楽しみいただけるというところにあります！

バルト海クルーズは一生忘れられない経験となる見逃せないチャンスです。ゆったりとくつろいで世界で最大で最も美しい多島海の旅を是非お楽しみください。

バイキングラインは一年を通じて快適で最新装備の豪華客船を毎日ストックホルム、ヘルシンキ、トゥルクまたタリンの都心間のみならずオーランド島まで運航しています。



## VIKING LINE

が選ばれる **5** つの理由

- 1 最もお得なフィンランドとスウェーデンを結ぶクルーズ
- 2 港が市の中心にあるので移動時間も短く、写真撮影にも最適
- 3 北欧基準のスタンダード
- 4 フィンランドとスウェーデンを結ぶマーケット・リーダー
- 5 世界でも最も美しい群島地帯のクルーズ(アルキペラゴ・クルーズ)は食事、免税ショッピング、カジノ、サウナなど船上のお楽しみも満載

# VIKING LINE

[www.sales.vikingline.com](http://www.sales.vikingline.com)



# Vision

Principle and Philosophy

## *Inclusivity*

世界を超えて

## *Learning and Understanding*

考えよう

## *Sustainability*

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

## Line up

インタビュー..... P02

俳優／映画監督／REBIRTH PROJECT代表 伊勢谷友介氏  
10代から体感した“世界内現実(リアル・ワールド)”への旅。  
本質を見極め、社会にアクションを起こす上で、  
旅は僕に揺るぎない視座を与えてくれる。

Youth Hostel Pick up..... P08

世界中から人々が訪れ“出会い”が生まれる場所  
東京隅田川ユースホステル  
■Tokyo Youth Hostel Information

Hostelling Magazine × 地球の歩き方..... P14

白夜の終わりを静かに告げる  
秋の夜空を彩るオーロラ  
フィンランド／スウェーデン／ノルウェー  
■フィンランドをもっと楽しむための5 Topics

トリップアドバイザー..... P20

■ユースホステル口コミ情報局  
■横浜ふれあいスポットランキング

Event Information..... P22

※本紙の情報は2015年8月1日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。  
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会  
編集・発行人 水野 幸  
TEL.(03)5738-0546  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。  
制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

*Hostelling Magazine*

—  
*Interview vol.002*

# 伊勢谷友介

ITとグローバリズムが世界を覆い尽くし、  
無数のビッグデータが国境を越えて瞬時に飛び交う今日。

そんな時代だからこそ、皮膚感覚と五感を駆使し、  
圧倒的な異文化・非日常に対峙することが、青春の貴重な血となり肉となる…。

今回は、11月7日に公開する「劇場版 MOZU」に出演され、

俳優・映画監督として多岐に活躍するとともに、  
斬新なアプローチと先見的なコンセプトで社会にインパクトを与え続ける、  
(株)リバースプロジェクトの代表・伊勢谷友介さんへの単独インタビューが実現。  
その卓越したビジョンから、海外での貴重な体験談や、世界観の形成と旅との関わり、  
プロジェクトの展望などについて語っていただきました。



10代から体感した“世界内現実”への旅。

本質を見極め、社会にアクションを起こす上で、

旅は僕に揺るぎない視座を与えてくれる。



初の海外体験もフィリピン。

マニラ撮影で、

あの「匂い」が鮮烈に蘇った。

11月7日(土)に公開する、「劇場版 MOZU」の撮影で、約1ヵ月間のフィリピン・マニラでのロケがありました。主演の西島秀俊さんやビートたけしさんと一緒にするのは勿論楽しみでしたし、あのむせかえるようなマニラ特有の「匂い」まで映り込むような映像になれば、と期待して臨みました。現場は、スラム周辺というロケーションもあってか、かなりの“マニラ臭”が漂ってまして…。で、ついその匂いの根源を分析したくなる「僕」がいて(笑)。いろんな腐敗物、動物の排泄物、無数のゴミ等が東南アジア固有の熱風で拡散して…なんて考えてしまうのも、初めての海外旅行がフィリピンだったせいかもしれません。

当時、芸大生(東京芸術大学・美術学部出身)だった僕は、ユースホステルなどを拠点にした旅で、その「匂い」をはじ

め、幾多の洗礼を受けました。でもそれは、価値観が変わるという経験ではなく、むしろ今まで自分が考えてきたこと、確信してきたことが、改めて鮮明に裏付けられる類のものでした。本質的な眼で世界を直視すると、表面的な事象を超えて見えてくる“世界内現実(リアル・ワールド)”とでもいべき構造や真実が現れる。フィリピンの旅の場合には、絶望的な貧富の差や、選択の余地なく油の浮かんだ水をすする子どもたちの現実など、資本主義の“影”の部分が色濃く浮き彫りになっていたんです。

観光どころじゃなかったNY大学

映画短期留学。千本ノックさながらの  
制作実務に鍛えられた。

芸大在学中には、ニューヨークへの短期留学も経験しました。日本ではまだまだ、映画制作を正規学科として教え



スタイリスト: 葛西信博  
メイク: ShinYa (PRIMAL)  
スーツ・ネクタイ / TAKEO KIKUCHI  
シャツ・シューズ / 40CARATS&525  
TAKEO KIKUCHI (03-6324-2642)

る大学は数えるほどしかありませんが、アメリカをはじめとする諸外国では既に巨匠級の監督やハリウッド・スターなど、卒業生が多数の実績を挙げています。僕が短期留学(サマーセッション)したNY大学芸術学部の映画学科も、ウディ・アレンやマーティン・スコセッシなど巨匠はじめ、ジム・ジャームッシュ、ジョエル・コーエン、俳優陣でもアンジェリーナ・ジョリー、アン・ハサウェイなど、今をときめくスターを輩出している名門中の名門です。

この映画学科に留学するためには、サマーセッションの単位取得が条件となっていたので受講したのですが、セッションがスタートして、制作実務スケジュールのハードさに驚かされました。そこまでの覚悟を持って受講したわけじゃなかったので最初は戸惑いましたが、毎日担当講師の叱咤激励に喰らいついてました。

週末にシナリオを完成させ、週明けには役者陣との打ち合わせや撮影プランの打ち合わせに並行してロケハンをし、すぐに撮影に突入。ラフ編集を済ませるや否や、また次のパートのシナリオに入る…といった感じ。まさに千本ノックさながらで、観光どころの話じゃありませんでした(笑)。聞けば相当厳しい講師についたようで。でも、これが実に勉強になりました。講義の密度も実践的なメソッドも、後に映画を手掛ける上で、実務的なバックボーンを形成してくれ、本当に有難かったですね。

## 恋愛や人の出会いの 根底にさえ、社会の歪みは しっかりと根付いている。

20代後半、僕の周りには、インドにハマる仲間がたくさんいて、まことしやかに「インドって土地は“呼ばれる”もんなんだ」なんて言っていたので、反証的に、「そんなワケあるか!」と勢い込んでインドへ行きました。インドといえば、未だにカースト制が厳然と残る身分制度社会。バラモン僧を頂点とし、宗教と密接に結びついた階層制度は、なかなか解消の糸口が見えません。2週間ほどニューデリーからムンバイへとさまよううち、被差別カーストの若者と知り合いました。彼はなぜか間口一間ほどの自分の店を持っていて、しかも「俺には日本人の彼女がいるんだ」と自慢げに写真を見せてきました。にわかには信じられませんでした。一緒に過ごすうちに、なんとなく真相が見えてきた気がしました。

インドを旅行していた日本人の女性が現地の若者と出会って、互いに淡い恋心を抱く。でも、トラ



20代のインド旅行でのスナップ。



### 山口県版松下村塾 ▶ プロジェクト (2015/9/12 ~ 13)

地域版松下村塾リバースプロジェクト第1弾は、松下村塾発祥の地山口県。山口銀行、山口県のマッチングにより、「持続可能な地域」をけん引する人材育成を目指して、独自の教育プログラムを発信する。



### ▲ 展覧会監修 「ヤマノカタチノモノガタリ」

地域文化遺産の保存と伝承をテーマに、東北芸術工科大学文化財修復センターが実施している、山形県の地域文化遺産保存修復プロジェクト展覧会を監修。イメージ構築から会場構成、図録、映像製作まで企画・運営。

ベラーである彼女にはやがて帰国の日が訪れ、ためらいながらも、その被差別カーストのインド人への思いを日本にまで持ち帰るまでの決意はない。で、日本人の感覚ではさほど高額とも思えない、いくばくかの“気持ち”を彼に渡し、インドを後にする。しかし、その額は彼にとって一軒の店を構えられるほどの大きなものだった…そんなストーリーです。何だか、ちょっとした青春短編小説みたいですよね。

そういう風に見ると、当の彼自身も真相に気付いている節が見受けられる。どことなく哀しげに、自分自身に信じ込ませるように話すんですね。

この話には色々な意見や感想もあるでしょうが、僕は思いました。善意のお金を渡したからと言って、この差別の構図は変わるどころか、金を受け取らざるを得ない側の精神も含め、差別的構造を固定化するだけなんです。恋愛とか出会いとか、人間関係の根源的な部分にまで、差別の構造はしたたかに根を張って僕らを絡め取ろうとする。差別の構造が残酷にも透けて見えるような感じがしました。

## 宇宙人の視点から人類の現状を 観ることで、縛られない思考と、 流されない行動に目覚める。

よく引き合いに出すんですが、仮に宇宙人の視点で人類の営みを時系列で観察したとします。そこに見えるのは、憎しみの連鎖から生まれる果てしない戦争だったり、自らの首をしめるような環境破壊だったり、基本的人権や生存権さえ抑圧するシステムだったり…おそらく「なんてバカげた行ないを飽きもせず…」と絶句し、呆れ果てるに違いないでしょう。

もしも、人間が目覚めた理性で、曇りなく物事を見られたなら、あらゆる問題の本質は至極明らかだし、無力感や徒労感さえ共同幻想であることも見抜けるはずなんです。だから、「人類がこの地球に生き残るためには？」という根源的な命題も、身の丈サイズにブレイクダウンしていけば、だれしものが現実に参加できる「衣・食・住」からのアクションに直結していくと思います。それがまさに、僕が代表をしている「リバースプロジェクト」のコンセプトです。

このコンセプトは、“おむすび”や“カットソー”や“アート”※などを媒介としながら、支援・教育・地方創生へと拡張して、この世界の政治・経済の矛盾に対するアンチテーゼとなり、世界を少しずつでも希望のある場所に変えていくものと、期待しています。

## 日本を恐怖の渦に陥れる、巨大な闇へ。 スケールアップした「MOZU」ワールドが この秋、列島に炸裂する。

本格ハードボイルドとして、多くの支持を集める連続ドラマ「MOZU」が、劇場版に生まれ変わった。注目なのが、日本映画界を代表する豪華キャスト。主演の西島秀俊、香川照之、真木よう子、長谷川博己らMOZU・レギュラー陣に対し、ビートたけし、伊勢谷友介、松坂桃李らエッジの立った俳優陣の競演が火花を散らす。妻子の死の真相を追う主人公・倉木（西島）の執念を軸に、日本犯罪史上最大の謎“ダルマ”の影が絡み合いながら、死闘が死闘を呼び緊迫のラストへと一気になだれこむ。監督は「海猿」シリーズの羽住英一郎。



劇場版 **MOZU**

11月7日(土)  
全国東宝系にて  
ロードショー



©2015劇場版「MOZU」製作委員会 ©逢坂剛/集英社

### Profile

## 伊勢谷 友介

1976年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。俳優として国内外の映画、TVドラマに多数出演。監督として『カクト』『セイジ・陸の魚-』を演出。2009年自身が代表を務める株式会社REBIRTH PROJECTを設立。「人類が地球に生き残るためには？」という命題の下、才能豊かなアーティスト、クリエイター、プロデューサーを結集。教育・芸術・支援など社会生活を営む上で基点となる領域を中心に、斬新なビジネスモデル構築や先見的なプロデュース事業を展開。11月公開の映画「リトルプリンス 星の王子さまと私」では声優として出演。

※リバースプロジェクトの展開事例。農業体験イベントを通じて子どもたちの心を豊かに育む「おむすびプロジェクト」。オンラインショップを中心に再生や循環の理念を反映したファッション展開、各種のコラボ・アートプロジェクト等を指す。